

## 幼児教育部会における検討事項について（案）

（教育課程企画特別部会 論点整理より）

### 〔1〕新しい幼稚園教育要領が目指す姿について

—幼児期に育みたい資質・能力と幼稚園教育要領の構造化の方向性から—

○論点整理に示された育成すべき資質・能力の基本的な考え方を踏まえ、幼児教育の特性に配慮した幼児期において育みたい資質・能力をどう明確化するか。

○アクティブ・ラーニングの視点に立って、幼児期における指導方法をどのように充実するか。

### 〔2〕幼稚園教育における改訂の具体的な方向性について

—教育課程の基本的な枠組みと、小学校教育との接続から—

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をどのように明確化するか。

○幼児期にふさわしい評価の在り方についてどのように考えるか。

○幼児教育の特性等に配慮した内容をどのように改善・充実していくか。

○幼児教育と小学校教育との接続を一層強化していくための支援方策をどのように進めるべきか。

○幼稚園における子育ての支援の在り方をどのように捉え、進めるべきか。

○幼稚園教育の目的や目標を達成するために、幼稚園におけるカリキュラム・マネジメントをどのように確立すべきか。

等

## 教育課程部会幼児教育部会（第3回）における検討事項

### ① 幼児期において育みたい資質・能力について

#### 論点1

○前回の幼児教育部会における議論や幼児教育の特性を踏まえ、小学校の各教科等における教育の前倒しと受け取られないようにしつつ、幼児期において育みたい資質・能力の明確化を図るには、どのような工夫が必要か。（資料2、資料4）

#### （参考）

#### （前回の幼児教育部会における論点）

○「教育課程企画特別部会 論点整理」に示された育成すべき資質・能力の基本的な考え方を踏まえ、幼児教育の特性に配慮した幼児期において育みたい資質・能力をどのように明確化するか。

#### （前回の幼児教育部会の議論の整理）

- ・個別の知識や技能は、幼児期の場合、何を知っているか、何ができるかというより、何を知ったり、何に気付いたりしているのかといった視点が大事。
- ・思考力・判断力・表現力等は、興味や関心がまずベースにあって「知っていること、気付いたことを使って、考えたり、試したり、表現したり」といった表現方法がよいのではないか。
- ・学びに向かう力、人間性等は、幼児期は環境を通しての指導がベースであることから、「どのように環境と関わって、より充実した生活を送るか」という表現が適当。
- ・5領域の内容については、資質・能力の三つの柱に沿って整理していく必要があるのではないか。

## ②幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について

### 論点 2

○前回の幼児教育部会の議論や幼児教育の特性を踏まえ、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化を図る際、以下の視点から改善すべき点はないか。(資料3、資料4)

・ 論点整理「育成すべき資質・能力について」(資料4 資質・能力等関係資料 論点整理抜粋P8～P13)を踏まえた視点

・ 平成22年以降の幼児を取り巻く環境の変化、幼児の育ちの変化、今後の社会の質的な変化、国際社会における幼児教育に対する認識の高まり、いわゆる非認知的能力の重要性の指摘、新しい時代と社会に開かれた教育課程(論点整理抜粋P1～P4)等を踏まえた視点

・ 幼稚園教育要領における5領域との関係や、要領全体とのバランスの視点

・ 「前の学校段階での教育が次の段階で生かされるよう、学びの連続性が確保されることが重要である。」と論点整理(論点整理抜粋P13)において提言されていることを踏まえた、小学校教育からの視点

・ 「次期改訂に向けての課題」(論点整理抜粋P5～6)を踏まえた視点

(参考)

(前回の幼児教育部会における論点)

○ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をどのように明確化するか。

(前回の幼児教育部会の議論の整理)

- ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を育成すべき資質・能力の三つの柱に沿って整理することによって、幼稚園から高等学校までを見通した体系的なものができるのではないか。
- ・ 自己肯定感について、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として重視すべきではないか。

人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質の育成を期す

## 教科横断的・総合的に育成すべきさまざまな資質・能力

小学校以上	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
-------	-------------------------------	---	--

小学校以上

幼稚園

### 個別の知識や技能の基礎

(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか)

### 思考力・判断力・表現力等の基礎

(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどをを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

### 学びに向かう力、人間性等

(どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか)

※ 指導に当たっては、幼児期の発達の特性に十分な配慮が必要。

### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- (イ)健康な心と体 (ロ)自立心 (ハ)協同性 (ニ)道徳性の芽生え (ホ)規範意識の芽生え
- (ヘ)いろいろな人とかかわり (ト)思考力の芽生え (チ)自然とかかわり (リ)生命尊重、公共心等
- (ヌ)数量・図形、文字等への関心・感覚 (ル)言葉による伝え合い (ヲ)豊かな感性

### 遊びを通しての総合的な指導

#### 領域

- ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う
- ・他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う
- ・周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う
- ・経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う
- ・感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする

カリキュラム・マネジメント

アクティブ・ラーニングの視点に立った深い学び、対話的な学び、主体的な学びの実現

## 教育課程部会幼児教育部会（第4回）における検討事項

### ① 幼稚園における子育ての支援の在り方について

- 現在、子育ての支援については、学校教育法第二十四条「幼稚園においては、第二十二條に規定する目的を実現するための教育を行うほか、幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他の関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努めるものとする。」と規定されている。
- また、幼稚園教育要領においては、第1章 総則 第3 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など及び第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 第2 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項に規定されているところ。
- 近年、我が国においては少子化の急速な進行、核家族化の進行等による子育て不安、孤立感の高まりや共働き世代の増加など社会の労働環境の変化、地域における連帯感の希薄化等による家庭や地域の教育力の低下等により、家庭、地域と学校教育がより連携強化を図っていくことが、ますます必要となっている。特に、幼児教育は学校教育の中で、家庭や地域との結び付きが強い学校種である。
- 「教育課程企画特別部会 論点整理」においては、「教育課程の基準となる学習指導要領及び幼稚園教育要領も、各学校が「社会に開かれた教育課程」を実現していくことに資するものでなければならない」と提言されている。  
また、「子供の発達の連続性を踏まえた幼児教育を充実するために、子供一人一人の多様性への配慮や学校と家庭、地域との連携強化の観点から、幼稚園における子育ての支援等について、具体的な留意事項の在り方等に関する検討を行う必要がある。」と提言されている。
- これらを踏まえ、幼稚園における子育ての支援について、具体的にどのような留意事項を設けていくべきか。

## ② 幼稚園における「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動」（いわゆる「預かり保育」）の充実について

- 現在、「預かり保育」については、学校教育法第二十五条「幼稚園の教育課程その他の保育内容に関する事項は、第二十二条及び第二十三条の規定に従い、文部科学大臣が定める。」と規定されていることを踏まえ、幼稚園教育要領において、第1章 総則 第3 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など及び第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 第2 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項に規定されている。
- 「預かり保育」は、通常のエド育時間の前後や長期休業期間中などに、地域の実態や保護者の要請に応じて、幼稚園が、当該幼稚園の園児のうち希望する者を対象に行う教育活動であり、我が国の子育て環境の変化等から、その要望は年々高まっており、実施率も増えてきている。
- これらを念頭に置きながら、「預かり保育」について、例えば、教育課程に基づく活動との関連性など、学校教育法や幼稚園教育の基本を踏まえ、幼稚園の教育活動として適切な活動となるよう、充実すべき点や留意事項として加えるべき点はないか。その際、「幼稚園が「社会に開かれた教育課程」を実現していくことに資するという観点から、考慮すべき点はないか。



## 教育課程部会幼児教育部会（第5回）における検討事項

### 【1. 幼児教育の特性に配慮した教育内容の改善充実について】

1. 幼稚園教育要領等全体及び総則の構造の在り方の観点から、改善すべき点は考えられるか。

○ 「教育課程企画特別部会 論点整理」においては、「次期学習指導要領等については、資質・能力の三つの柱全体を捉え、教育課程を通じてそれらをいかに育成していくかという観点から、構造的な見直しを行うことが必要である。これはすなわち、教育課程について、「何を知っているか」という知識の内容を体系的に示した計画に<sup>とど</sup>留まらず、「それを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」までを視野に入れたものとして議論するということである。」と提言されているところである。

○ 幼稚園教育要領等においては、幼児教育の特性を大事にしつつ、上記提言を念頭に置き、構造的な見直しを行う必要があるが、例えば、以下の観点から、改善すべき点は考えられるか。

・現行幼稚園教育要領は、小学校以上の学習指導要領とは異なり、第一章総則、第二章ねらい及び内容、第三章指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項の3章で構成されている。

幼児期に育成すべき資質・能力との関係を踏まえ、幼稚園教育要領等の全体構造を検討するに当たって、各領域における本質的意義を捉え直していくことが重要である。各領域に位置付けられている事項や内容の体系化を図り、資質・能力の全体像を整理していくことを踏まえつつ、教育課程の全体構造（第1章 総則）と各領域（第2章 ねらい及び内容）等を往還的に整理していく必要はないか。

その際、特に幼児期において育みたい資質・能力の重要性を踏まえ、教育課程の全体構造に位置付けるべきものなど、現行幼稚園教育要領の再整理が必要ではないか。

○ 総則・評価特別部会における検討事項（案）（P 4～）を踏まえて、幼稚園教育要領等において、改善すべき点は考えられるか。

## 2. 発達の段階や成長過程のつながりを踏まえた幼稚園教育要領等の在り方を検討する際、改善すべき点はないか。

- 「教育課程企画特別部会 論点整理」においては、「育成すべき資質・能力については、幼児教育から高等学校までを通じた見通しを持って、各学校段階の教育課程全体及び各教科等においてどのように伸ばしていくのかということが、系統的に示されなければならない。」、「こうした『18歳の段階で身に付けておくべき力は何か』という観点や、『義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何か』という観点を共有しながら、幼児教育、小学校教育、中学校教育、高等学校教育それぞれの在り方を考えていく必要がある。同時に、子供たち一人一人の個々の発達課題や教育的ニーズを踏まえた対応も重要である。」と提言されたところである。

15年にも渡る初等中等教育の始まりでもある幼児教育の重要性や特性を踏まえつつ、総則・評価特別部会における検討事項（案）の（2）（特に、学校段階間接続：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化、幼児教育と小学校の各教科等における教育との接続の充実や関係性の整理）（P4～）や各学校段階等・教科等を横断した幅広い視点からの検討事項（言語能力の充実、特別支援教育の充実、情報に関わる資質・能力、健康・安全等に関わる育成すべき資質・能力）等を踏まえ、幼稚園教育要領等において、改善すべき点は考えられるか。

（参考 「教育課程企画特別部会 論点整理」

### 5. 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性 ②小学校

「幼児教育と小学校教育の接続に関しては、全ての教科等において幼児教育との接続を意識した教育課程を編成したり、幼児教育の特色を生かした総合的な指導方法を取り入れたりするなど、スタートカリキュラムの編成等を通じて、幼児教育との接続の充実や関係性の整理を図る必要がある。」

- 「教育課程企画特別部会 論点整理」において、「感情や行動のコントロール、粘り強さ等のいわゆる非認知的能力を育むことがその後の学びと関わる重要な点である」、「幼児が音声の響きやリズムに気付くこと、生活に必要な言葉を分かたり使ったりすること、生活の中で様々な色、形などに気付いたり感じたりすること、場面に応じ体の諸部位を十分に動かすことなどが、小学校以降の生活や学習の基盤につながる」と提言されたことを踏まえ、幼稚園教育要領等において、改善すべき点は考えられるか。



3. 社会とのつながりの観点から、改善すべき点は考えられるか。

- 家庭や地域社会との連携、障害のある幼児との交流及び共同学習・異年齢・世代間交流等について、幼稚園教育要領等においてどのように示すべきか。

4. 資質・能力の三つの柱との関係や現行幼稚園教育要領等における現状と課題から改善すべき点は考えられるか。

- 論点整理で示された資質・能力の三つの柱との関係や幼稚園等の現場において日々の教育の実践を行う中で、困難が生じている点など、幼稚園教育要領等の領域の記載内容で改善すべき点は考えられるか。

例えば、

- ・多様な動きを伴った遊びの充実
- ・自己肯定感の充実
- ・思考力に関する領域間の整理
- ・思考や自己コントロールに関する言葉の機能の充実
- ・表現する過程の充実 等

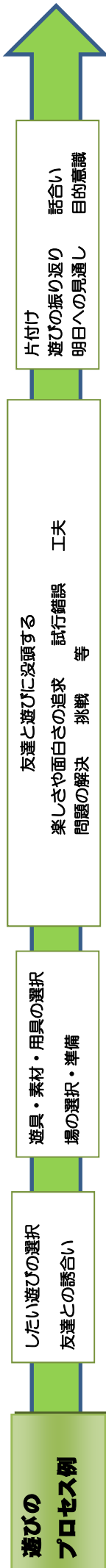
**【2. アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、幼児期に育成すべき  
資質・能力を育むために重視すべき指導等の改善充実について】**

- 幼児教育における学びの過程のイメージ（たたき台）（資料4参照）を踏まえ、改善すべき点はないか。
- 教師の関わり、環境の構成、教材等の観点から、改善すべき点はないか。
- 教育課程全体において重視すべき学習活動等（習得・活用・探究、言語活動、体験活動、問題解決的な学習、自主的・自発的な学習、見通し・振り返り、繰り返し指導、情報機器やネットワーク等の活用、社会教育施設等の活用、学校図書館を活用した読書活動、美術館や音楽会等を活用した芸術鑑賞活動等）の観点から、改善すべき点はないか。

# 幼児教育における学びの過程のイメージ（たたき台）

平成28年3月7日  
教育課程部会幼児教育部会  
資料5

幼児教育において、幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達的基础を培う重要な学習として位置付けられている。下に示すプロセスは例示であり、順序を含め本例に限定されるものではない。



幼児教育における重要な学習としての遊びは、様々な形態等で構成されており、下に示す三つの学びの過程を相互に関連させながら、学びの広がり（深・学び、理解の学び、主観的学び）を意識した、指導計画の工夫が望まれる

## 深い学びの過程

遊びの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか

試行錯誤  
 気付き・発見の喜び  
 なぜ・どうして  
 どうなるのかな・見付けた

予想・予測・比較  
 分類・確認  
 ○○かもしれない・  
 ○○になりそう  
 ○○は同じだけれど△△は違う

規則性・法則性・関連性等  
 の発見と活用  
 ○○だから△△になった  
 ○○なのは△△だから  
 △△すると○○になりそう  
 次に○○するとどうなるかな

## 対話的な学びの過程

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

思いの伝え合い  
 イメージの共有  
 共感 刺激のし合い

葛藤  
 自分との向き合い  
 折り合い

話し合い  
 目的の共有  
 協力

## 主体的な学びの過程

幼児が見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学びを振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

安定感・安心感  
 好奇心  
 探究心

興味や関心  
 自発性

必要感  
 振り返り  
 見通し  
 等

## 環境を通して行う教育

物的・人的環境

意図的・計画的な環境

幼稚園等の環境

教師の幼児の活動に応じた援助

(参考) 幼児教育における学びの過程 事例 ポップコーンパーティーをしよう 5歳児12月

本事例は幼児教育における学びの過程をイメージしやすくするため、ある幼稚園の具体的な活動を図示したものです。活動における学びの過程はあくまでも例示である。下の事例の枠の色は学びの過程の三つの視点を表すが、幼児教育は総合的な指導を行うため、一つの学びの過程に限らない。便宜上、一番関連の強い学びの過程の色を示した。



**深い学びの過程**  
よく見る・聞く・比べる・予想する・気付く  
必要感に基づいた数量・図形・重さ・空間の認識・容量等の捉え  
ものの特異性や変化等の捉え  
気付いたことを言葉に表す  
関連性の発見

**対話的な学びの過程**  
話し合い 目的の共有 思いや考えの伝え合い 共感 相手の考えの受容 年長としての成長の喜び  
役割の分担 役割への意識 協力

**主体的な学びの過程**  
見通し 好奇心・探究心  
自覚 達成感 充実感  
自発性 有能感

**振り返り 次への意欲**  
一人一人の楽しさ・気付きの把握  
学級全体での振り返りの視点を提示

活動の流れの見通し  
役割分担の確認  
幼児の発想の認めや関心  
発想の実現に向けた材料提示

一日の流れへの気付きを促す言葉掛け  
幼児の気付きを促す新しい用具の提示  
幼児の気付き・発見への認めや共感

教師の援助環境の構成

## 特別支援教育部会における検討事項について（案）

全ての学校や学級に、発達障害を含めた障害のある子供たちが在籍する可能性があることを前提に、インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、子供たちの自立と社会参画を一層推進するため、以下の事項を検討してはどうか。

### 1. 特別支援教育における、

① 社会に開かれた教育課程、育成すべき資質・能力、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った指導、カリキュラム・マネジメントの在り方。

### 2. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校等において、

① 各教科等の目標を実現する上で考えられる困難さに配慮するために必要な支援の改善・充実。

② 通級による指導や特別支援学級の意義、それらの教育課程の取扱いについての改善・充実。

③ 合理的配慮の提供も含めた「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の位置付け並びに作成・活用の方策についての明確化。

④ 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制の確立等の観点等の明確化。

⑤ 共生社会の形成に向けた障害者理解の促進、交流及び共同学習の一層の充実。

### 3. 特別支援学校において、

① 幼児児童生徒の発達の段階に応じた自立活動の改善・充実。

② これからの時代に求められる資質能力を踏まえた、障害のある幼児児童生徒一人一人の進路に応じたキャリア教育の充実。

③ 知的障害のある児童生徒のための各教科の改善・充実。

### 4. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等との間で、

① 子供たち一人一人の学びの連続性を実現するための教育課程の円滑な接続の実現

など

## 言語能力の向上に関する特別チームにおける検討事項

1. 「国語科」及び「外国語科・外国語活動」を通じて育成すべき言語能力について
  - ・ 育成すべき資質・能力の可視化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
  - ・ 他教科における言語能力の育成との関係について
2. 言語能力を向上させるための、「国語科」及び「外国語科・外国語活動」における指導内容の系統性について
  - ・ 目標・指導内容（当該教科において育成すべき資質・能力）等全体に関して
  - ・ 言語の仕組み（音声、文字、語句、文構造、表記の仕方等）に関して
3. 言語能力を向上させるための、「国語科」及び「外国語科・外国語活動」相互の連携について
  - ・ 目標・指導内容（当該教科において育成すべき資質・能力）等全体に関して
  - ・ 言語の仕組み（音声、文字、語句、文構造、表記の仕方等）に関して
  - ・ ローマ字学習の取扱いについて
4. 効果的な指導の在り方について
  - ・ 教科担任制の中・高等学校における連携の在り方
  - ・ 短時間学習の活用
  - ・ ICT等の活用



# 言語に関する資質・能力（検討のたたき台）

## 個別の知識や技能

### 思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等

### 学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの

<p>○言葉の働き、役割に関する理解</p> <p>○言葉の特徴やさまじりに関する理解と使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の位相、書き言葉（文字）、話し言葉</li> <li>・語、語句、語彙</li> <li>・文の成分、文の構成</li> <li>・文章の構造（文と文の関係、段落、段落と文章の関係） など</li> </ul> <p>○言葉の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し方、書き方、表現の工夫</li> <li>・聞き方、読み方 など</li> </ul> <p>○言語文化に関する理解</p> <p>○既有知識（教科に関する知識、一般常識、社会的規範等）</p>	<p>◆テキスト・情報を理解する力、文章や発話により表現する力【創造的思考（とそれを支える論理的思考）の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 情報を多角的に精査し、構造化する力</li> <li>・論理の吟味・構築（根拠、論拠、定義、前提等）</li> <li>・信頼性、妥当性の吟味</li> <li>・推論に基づく情報の精査・取捨選択</li> <li>・既有知識による内容の補足、精緻化</li> <li>➢ 構成・表現形式を評価する力</li> </ul> <p>【感性・情緒の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力</li> <li>➢ 構成・表現形式を評価する力</li> </ul> <p>【他者とのコミュニケーションの側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 言葉を通じて伝え合う力</li> <li>・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解</li> <li>・相手の心の想像、意図や感情の読み取り</li> <li>・自分の考えや思いの伝達</li> <li>➢ 構成・表現形式を評価する力</li> </ul> <p>◆考えを形成、深化する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 情報を編集・操作する力</li> <li>➢ 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力</li> <li>➢ 新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉のもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉が持つ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度</li> <li>・言葉を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度</li> <li>・様々な事象に触れたり体験したりして感じたこととを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度（自分の感情をコントロールしようとする態度）</li> <li>・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者を理解するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度</li> <li>・歴史の中で創造され、継承されてきた言語文化に対する関心</li> </ul>
---	--	---



言語に関する資質・能力の要素(イメージ案)  
 ~「国語科」及び「外国語科・外国語活動」を通じて育成すべき言語能力へ

認知から思考へ

テキスト(情報)の理解

構造と内容の把握

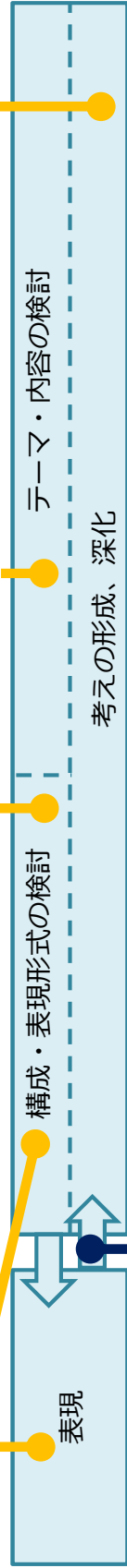
- 言葉の働き、役割に関する理解
- 日本語や外国語の特徴やきまりに関する理解と使い分け
- ・言語の位相、書き言葉(文字)、話し言葉
- ・語、語句、語彙
- ・文の成分と文の構成
- ・文と文の関係、段落、段落と文章の関係
- 言葉の使い方
- ・話し方、聞き方、表現の工夫
- ・聞き方、読み方
- 言語文化に関する理解
- 既有知識(教科に関する知識、一般常識、社会的規範等)

精査と解釈

- 【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】
- 情報を多角的に精査し、構造化する力
  - ・ 論理の吟味・構築(根拠、論拠、定義、前提等)
  - ・ 信頼性、妥当性の吟味
  - ・ 推論に基づき情報の精査、取舍選択
  - ・ 既有知識による内容の補足、精緻化
  - 構成・表現形式を評価する力
- 【感性・情緒の側面】
- 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
  - 構成・表現形式を評価する力
- 【他者とのコミュニケーションの側面】
- 言葉を通じて伝え合う力
  - ・ 相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解
  - ・ 相手の心の想像、意図や感情の読み取り
  - ・ 自分の考えや思いの伝達
  - 構成・表現形式を評価する力

自分なりの整合性のとれた  
 考えの形成

- 情報を編集・操作する力
- 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
- 新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力



- 推敲
- 文章の推敲
  - ・ 構成・表現形式の修正
  - ・ 内容の再検討、考えの再整理
  - 発話の調整
  - ・ 相手に配慮した表現
  - ・ 相手の視点を考慮した展開

文章や発話による表現

思考から表現へ

## 国語ワーキンググループにおける検討事項

1. 国語科を通じて育成すべき資質・能力について
  - ・国語科を学ぶ本質的な意義や他教科等との関連性について（言語能力の向上に関する特別チームにおける議論を踏まえて）
  - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた国語科において育成すべき資質・能力の系統性について
  - ・国語科において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
  - ・特に高等学校における科目構成について
  - ・漢字指導の在り方について
  
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき国語科の指導等の改善充実の在り方について
  
3. 資質・能力の育成のために重視すべき国語科の評価の在り方について
  
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

# 国語科で育成すべき資質・能力（検討のたたき台）

## 思考力・判断力・表現力等

教科等の本質に根ざした見方や考え方等  
 (知っていること・できることをどう使うか)

## 学びに向かう力、人間性等

情意、態度等に関わるもの  
 (どのように社会・世界と関わり  
 よりよい人生を送るか)

## 個別の知識や技能

(何を知っているか、何ができるか)

<p>○言葉の働き、役割に関する理解</p> <p>○言葉の特徴やさまじりに関する理解と使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の位相、書き言葉(文字)、話し言葉、敬語、方言</li> <li>・語、語句、語彙</li> <li>・文の成分、文の構成</li> <li>・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係)</li> <li>・表現の工夫(修辞辞など)</li> </ul>	<p>◆テキスト・情報を理解する力、文章や発話により表現する力  <b>【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢情報を多角的に精査し、構造化する力</li> <li>・論理の吟味・構築(根拠、論拠、定義、前提等)</li> <li>・信頼性、妥当性の吟味</li> <li>・推論に基づく情報の精査・取捨選択</li> <li>・既有知識による内容の補足、精緻化</li> <li>➢構成・表現形式を評価する力</li> </ul> <p><b>【感性・情緒の側面】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力</li> <li>➢構成・表現形式を評価する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉のもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉がもつ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度</li> <li>・言葉を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度</li> <li>・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度(自分の感情をコントロールしようとする態度)</li> </ul>
<p>○言葉の使い方に関する理解と使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話合いや話し方・発表、聞き方</li> <li>・書き方</li> <li>・読み方や音読・朗読</li> </ul> <p>○書写に関する知識・技能</p> <p>○伝統的な言語文化に関する理解</p> <p>○文章の種類に関する理解</p> <p>○情報活用に関する知識・技能</p>	<p><b>【他者とのコミュニケーションの側面】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢言葉を通じて伝え合う力</li> <li>・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解</li> <li>・相手の心の想像、意図や感情の読み取り</li> <li>・自分の考えや思いの伝達</li> <li>➢構成・表現形式を評価する力</li> </ul> <p>◆考えを形成、深化する力(個人または集団として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢情報を編集・操作する力</li> <li>➢新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力</li> <li>➢新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度</li> <li>・我が国の言語文化に関心を持ち、言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度</li> <li>・自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したり、新しい考えに触れたりするなどして人生を豊かにしようとする態度</li> </ul>



## 【高等学校】

- ①言葉がもつ力を信頼し、伝え合う喜びを味わうとともに、言語文化の担い手としての意識をもち、生涯にわたり国語を尊重してその向上を図っている。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせ、他者との関係性の中で、言葉で効果的に表現したり的確に理解したりするとともに、それを通じて、社会的な視点から、自分の思いや考えを統合的・創造的に形成し深めている。
- ③生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な言葉の特徴やきまり、言葉の使い方などについて、総合的に理解し、それらを効果的に使い分けられることができる。

## 【中学校】

- ①言葉がもつ力を信頼し、伝え合う喜びを味わうとともに、言語文化に対する関心をもち、国語を尊重している。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせ、他者との関係性の中で、言葉で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、それを通じて、自分の思いや考えを形成し深めている。
- ③社会生活に必要な言葉の特徴やきまり、漢字の読み書き、言葉の使い方などについて理解し、それらを適切に使い分けられることができる。



## 【小学校】

- ①言葉がもつ力を信頼し、伝え合う喜びを味わうとともに、言葉に対する関心をもち、国語を尊重している。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせ、他者との関係性の中で、言葉で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、それを通じて、自分の思いや考えを形成している。
- ③日常生活に必要な言葉の特徴やきまり、文字の読み書き、言葉の使い方などについて理解し、それらを使い分けられることができる。



## 【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- ・友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。
- ・相手の話の内容を注意して聞いて分かっていたり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように話したりするなどして、言葉を通して教職員や友達と心を通わせる。
- ・イメージや考えを言葉で表現しながら、遊びを通して文字の意味や役割を認識したり、記号としての文字を獲得する必要性を理解したりし、必要に応じた具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりする。
- ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、その想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しんだりする。



個別の知識や技能

（何を知っているか、何ができるか）

- 言葉の働き、役割に関する理解
  - \* 言葉の働き、役割(例えば外国語と比較して)
  - \* 言葉の働き、役割(主に効果的な使い分け)
- 言葉の特徴やさまじりに関する理解と使い分け
  - \* 言葉の位相、書き言葉、話し言葉、敬語、方言
  - \* 平仮名、片仮名、ローマ字、学年別漢字配当表
  - \* 日常生活で使われる敬語、方言と共通語の違い
  - \* 学年別漢字配当表、大体の常用漢字
  - \* 時間の経過による言葉の変化
  - \* 常用漢字
- ・語、語句、語彙
  - \* 主に具体的な事象を表す語句
  - \* 主に抽象的な概念を表す語句
  - \* 単語の類別と働き
  - \* 社会性・専門性の高い語句、思考・思索の深化につながる語句
- ・類義語、対義語等の語彙の体系的理解
- ・文の成分、文の構成
  - \* 主語・述語、修飾語・被修飾語の関係
  - \* 基本的な文の構成
  - \* 多様な文の構成、文の成分の順序や照応
- ・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係)
  - \* 指示語、基本的な接続語(順接、逆接など)
  - \* 文章の基本的な構成や展開
  - \* 接続語等を要しない文と文との関係
  - \* 多様な文章の種類と典型的な構成や展開
  - \* 文章の独創的な構成や展開
- ・表現の工夫(修辞など)
  - \* 擬人法、比喩、反復など
  - \* 書き出しや結びの工夫など
  - \* 表現の技法の使い分け
  - \* 文章の種類に応じた表現の仕方

思考力・判断力・表現力等

教科等の本質に根ざした見方や考え方等  
 (知っていること、できることをどう使うか)

- ◆テキスト・情報を理解する力、文章や発話により表現する力
  - 【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】
  - 情報を多角的に精査し、構造化する力
    - \* 事実と意見の区別や情報と情報の関係性について、見出しや文頭の語句、接続語などを手掛かりに考え、内容や大まかな展開を捉える力
    - \* 目的に応じ、順序やまとまりを考えて情報を整理し、自分の思いや考えを適切な言葉で表現する力
    - \* 情報の信頼性・妥当性、情報と情報の関係性等を根拠に基づいて検討し、内容や展開を解釈したりする力
    - \* 目的に応じ、伝達の効果を考えて情報を整理・構成し、自分の思いや考えを適切な言葉で表現する力
  - \* テキスト(音声、文字、映像等を含む)の内容や展開、それらに含意された意味を、論理や既有知識に基づいて、吟味、補足、精緻化を行い、解釈する力
  - \* 情報の質と量に関し、情報の信頼性・妥当性や論理性、目的との整合性等を考察し、情報を整理・構造化して表現する力
- 構成・表現形式に対して評価する力(※)
  - \* 構成・表現形式に対して、自分の考えをもつ力
  - \* 構成・表現形式を根拠をもって評価し、自分の表現に生かす力
  - \* 他の構成・表現形式と比較しながら、その妥当性や効果を評価する力、表現行為を行いながら、相手の反応や状況に応じてより良いものに改善する力
- 【感性・情緒の側面】
- 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
  - \* 体験的・感覚的に言葉を捉えて感じたり想像したりする力
  - \* 自分の思いや感情をありのまま、言葉にする力
  - \* テキスト・情報に表された世界を、言葉の意味や文章の展開を手掛かりに、感じたり想像したりする力

学びに向かう力、人間性等

情意、態度等に関わるもの  
 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)

- ・言葉のもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉がもつ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度
- ・言葉を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度
- ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度(自分の感情をコントロールしようとする態度)
- ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度
- ・我が国の言語文化に対する関心、及び、言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度
- ・自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したり、新しい考えに触れたりするなどして人生を豊かにしようとする態度

- \* 多様な文体の効果と使い分け
- \* 小論文等の書き方

など

### ○言葉の使い方に関する理解と使い分け

- ・話し方や話し方・発表(略)
- ・書き方(略)
- ・読み方や音読・朗読(略)

### ○書写に関する知識・技能

- \* 筆記具の持ち方、文字の形を整えて書く技能
- \* 文字の大きさや筆記具の特徴と選択
- \* 文字を正しく整えて速く書く技能
- \* 表現方法や伝達方法の効果と使い分け
- \* 様々な文章の目的に応じた文字の書体や配置
- \* 実用的な文章の目的に応じた、効果的な文字の書体や配置

など

### ○伝統的な言語文化に関する理解

- \* 文語調の文章の特徴
- \* 昔の人のもの見方や感じ方
- \* 短歌や俳句、ことわざ、慣用句、故事成語
- \* 代表的な古典作品の種類や特徴
- \* 現代につながる古典や芸能の特質や意義
- \* 現代につながる言語文化の特質や意義
- \* 代表的な古典作品とその歴史的背景
- \* 文語のきまり、訓読のきまり

など

### ○文章の種類に関する理解

(略)

### ○情報活用に関する知識・技能

- \* 索引の利用、目次や奥付の見方
- \* 学校図書館の意義、役割
- \* 学校図書館やWebサイト等における情報検索の仕方
- \* 様々なメディアの特性と使い分け
- \* 学校図書館やWebサイト等により収集した情報の真偽や適否の確認、編集の仕方

など

- \* 自分の思いや感情を多様な表現の中から言葉を選び、思いや感情を明確にしたり深めたりする力
- \* テキストに含意された世界を、言葉の意味や感覚を手掛かりに、根拠をもって感じたり想像したりする力
- \* 自分の思いや感情を適切に言語化することで、思いや感情を明確にしたり、深めたり、望ましい方向にコントロールしたりする力

### ➤構成・表現形式に対して評価する力

(※と同じ)

### 【他者とのコミュニケーションの側面】

- 言葉を通じて伝え合う力
- \* 自分の体験や感情を元に相手の心を想像する力
- \* 相手との関係性を理解し、相手の意図や内面を想像・推察する力
- \* 社会的な文脈において、相手との関係性を把握し、相手の意図や内面を想像・推察する力

### ➤構成・表現形式に対して評価する力

(※と同じ)

### ◆考えを形成、深化する力(個人または集団として)

- 情報を編集・操作する力
- \* 対面する相手や具体的な目的に応じて、情報を選択する力
- \* 相手や目的に応じて、話題、題材などを設定し、情報を編集・操作する力
- \* 相手や目的に応じて、話題、題材、問題意識などを設定し、情報を編集・操作する力

### ➤新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合

- し、構造化する力
- \* 他者の思い・考えや新たな情報を、自分の思い・考えや既知の情報に照らして取り入れる力
- \* 社会生活における様々な情報を、既存の知識や経験・感情に基づいて解釈し、整理・構成する力
- \* 社会的文化的な背景を有する未知のテキストを、既存の知識や経験・感情に体系的に統合し、構造化する力

➤新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

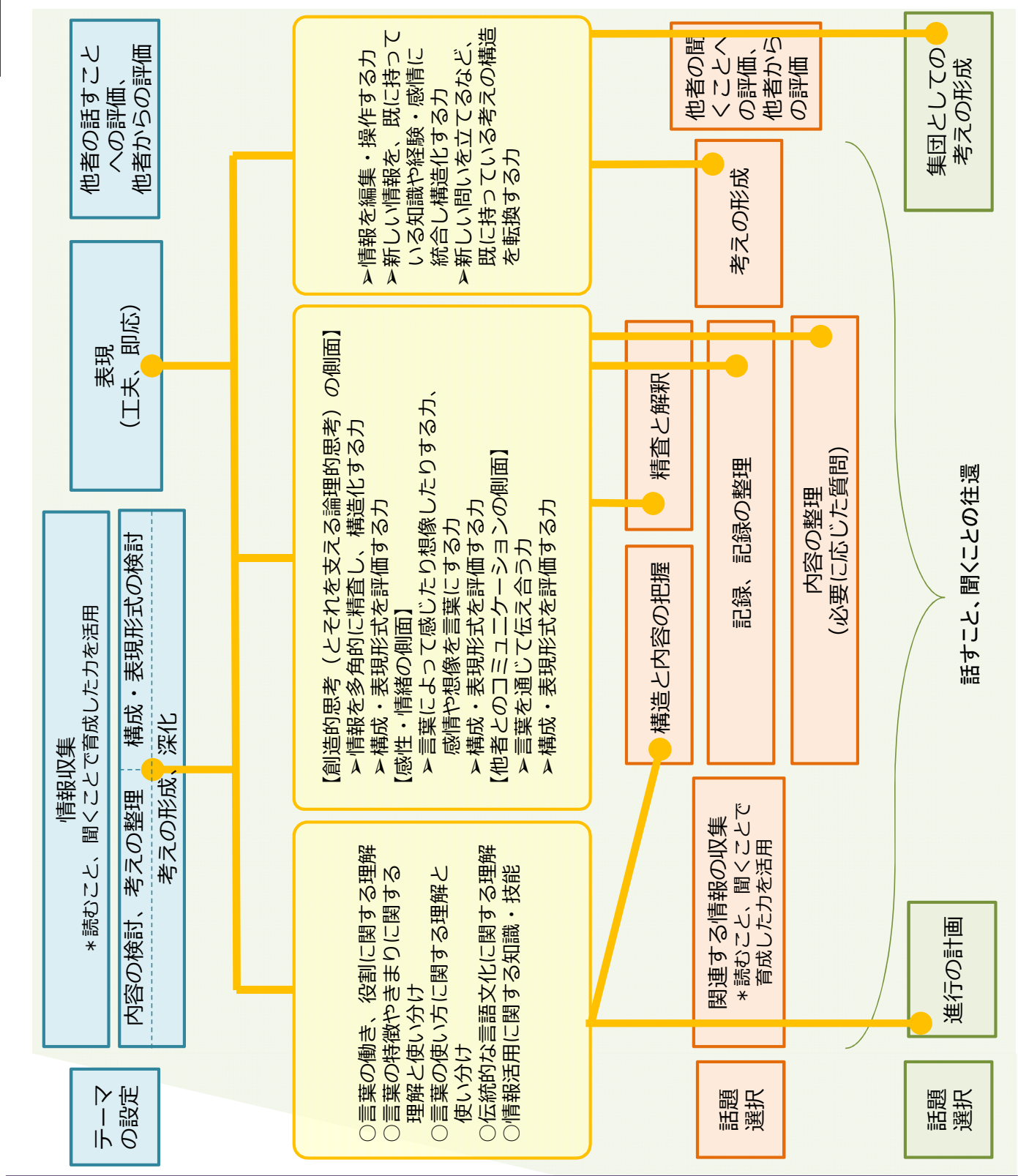
- \* 考えたこと、分かったことを元に、更に確かめたいこと、調べたいことを意識化する力
- \* 考えたこと、分かったことを元に、新しい問いを立てたり、新たな発想や主張を形成したりする力
- \* 既成の概念と異なる新しい問いを立てたり、他者と異なる発想や主張を独自の論理や表現によって確立したりする力



国語科における学習活動の要素(イメージ案)

自分の学習に対する考察(振り返り)

次の学習活動(話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)への活用



※必ずしも一方通行、順序性のある流れではない。

書くこと

読むこと

学習目的の理解（見通し）

テーマ  
の設定

情報収集

\*読むこと、聞くことで育成した力を活用

内容の検討、考えの整理、構成・表現形式の検討

考えの形成、深化

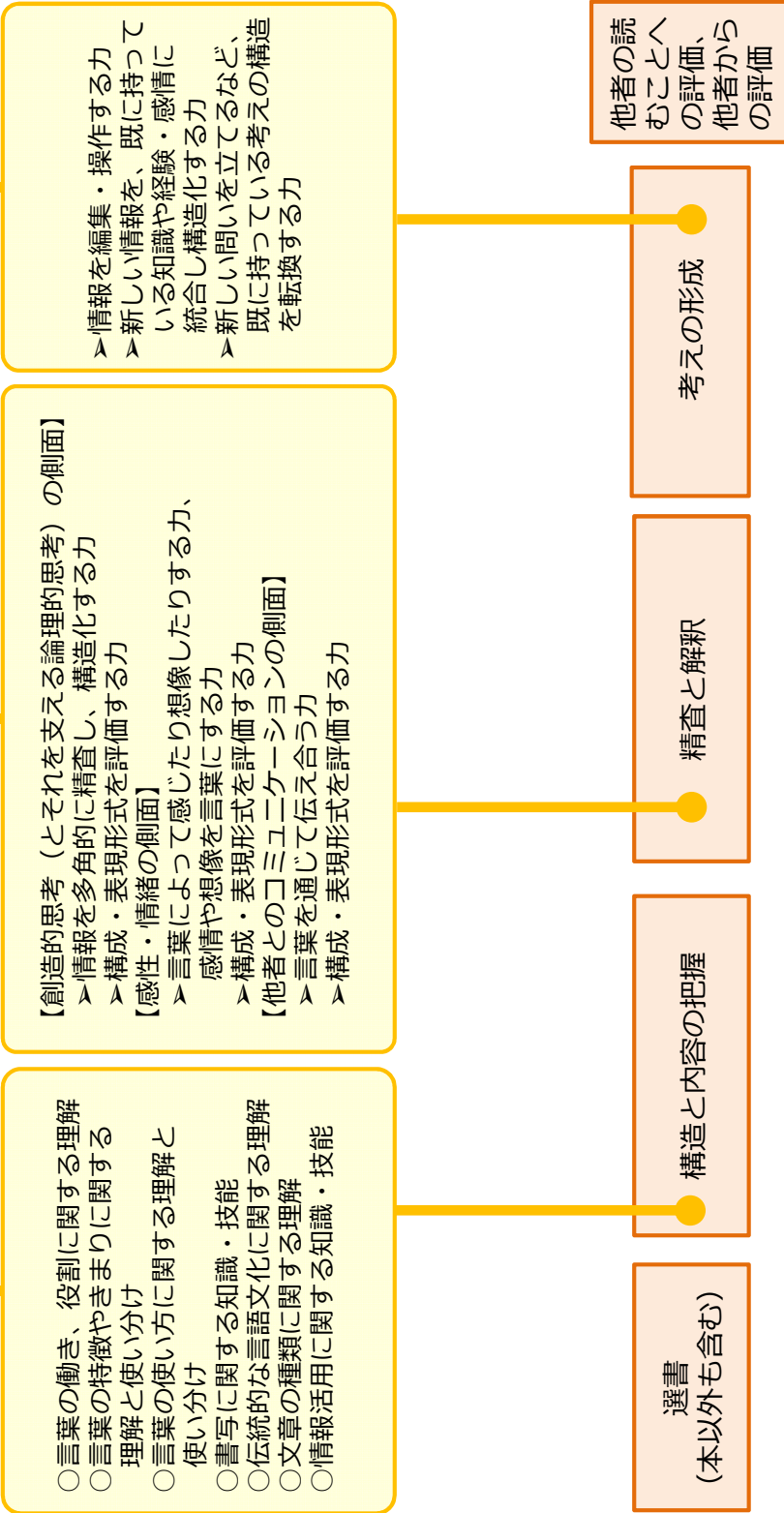
記述

他者の書くこと  
への評価、  
他者からの評価

推敲

自分の学習に対する考察（振り返り）

次の学習活動（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）への活用





# 現行の高等学校国語科における課題と対応（案）

課題1：教科書教材等への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業が行われる傾向（P4）

→各科目において、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を図る

課題2：話し合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」における学習が低調（P4）

→共通必修修科目及び選択科目において、話し合いや論述などの活動による「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関わる能力の育成を図る

課題3：高校生の思考力・判断力・表現力の一部に課題（P5）

→各科目において、資質・能力の三つの柱のうち、特に思考力・判断力・表現力等の育成を重視  
・テキスト・情報を理解する力、文章や発話により表現する力（創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面）  
・考えを形成する力

課題4：メディアリテラシーや課題探究に関する言語活動等があまり行われていない（P5）

→共通必修修科目及び選択科目において、メディアリテラシーや課題探究に関する言語活動等による情報活用能力の育成を図る

課題5：進学希望者の多い普通科では、A科目の開設率が低く、言語文化に関する学習が不十分である可能性がある(P6)

課題6：古典に対する興味・関心とともに、必要性を感じさせる指導にも課題（P7）

課題7：学習意欲を高めるために、「文法」「古語の意味」等に関する指導の改善の必要性（P7）

→共通必修修科目及び選択科目において、言語文化を理解し、社会や自分との関わりの中で生かす学習を重視する  
→選択科目において、我が国の伝統的な言語文化への理解・関心を深める

課題8：小・中学生に比して、高校生の読書活動は、ここ10年ほど改善がみられない（P8）

→各科目において、読書活動の充実を図る



# 高等学校国語科の現行の課題と改訂の方向性（たたき台）

※ 課題の番号は、前頁に記載のある課題番号

## 共通必修科目（案）

### 【現代の国語（仮称）】

- ・ **実社会・実生活に生きて働く国語の能力**を高める科目
- ・ 収集した情報を解釈し、根拠に基づいて論述したり議論したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育成する学習を重視（「読むこと」「書くこと」を基に「書くこと」や「話すこと・聞くこと」に展開する指導を重視）
- 特に、課題2、3に対応
- ・ 情報活用能力の育成を重視
- 特に、課題4に対応

### 【言語文化（仮称）】

- ・ **我が国の言語文化への理解・関心**を深める科目
- ・ 古典や近代以降の文章を読むことを通して我が国の言語文化を理解し、社会や自分との関わりの中で生かす学習を重視（「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を中心とする指導）
- 課題3、5、6、7に対応

## 選択科目（案）

### 【論理国語（仮称）】

- ・ **多様な文章等を、多角的な視点から理解し、自分の考えを論理的に形成して表現する能力**を育成する科目
- 特に、課題3（主として、創造的・論理的思考力の側面、考えの形成）に対応

### 【文学国語（仮称）】

- ・ 小説、随筆、詩歌、脚本等に描かれた**人物の心情や情景等を読み味わい、表現の仕方等を評価するとともに、それらを創作する能力**を育成する科目
- 特に、課題3（主として、感性・情緒の側面、考えの形成）に対応

### 【国語表現（仮称）】

- ・ **自分の思いや考えをまとめて、適切かつ効果的に表現し、他者に伝える能力**を育成する科目
- ・ 表現に関わる能力や、情報活用能力の育成を重視
- 特に、課題2、3（主として、他者とのコミュニケーションの側面、考えの形成）、4に対応

### 【古典探究（仮称）】

- ・ 古典としての古文・漢文を課題意識をもって読み深めることを通して、**我が国の伝統的な言語文化への理解・関心**を深める科目
- 特に、課題3、4、5、6、7に対応

課題1 ……各科目において、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を図る  
 課題8 ……各科目において、読書活動の充実を図る